成人
SEIJIN

特集
ぢばに伏せ込む

青年会旭日分会会報『成人』立教 187 年 9 月号

巻頭言

「もし自分がアパートを一棟でも持っていれば、どれだけの月収があるのだろう？」などという邪な考えがふと頭をよぎることがある。自分の欲深さを自覚する瞬間だ。しかし、こうした「不労所得」と呼ばれるものは、私だけでなく、多くの人々にとって憧れの対象なのではないだろうか。では、「なぜ多くの人が不労所得を欲しがるのか？」ということを改めて考えてみると、それはその奥にある「安心感」を求めているんだろうと思う。それは、生活を送る上での安心感、人生を歩んでいく上での安心感である。もし資産を所有している権利で月々何十万あるいは何百万ものお金が安定的に入ってくれば、さぞかし日々安心して生活が送れのだろうと想像する。

そこで、教祖存命の時代における不労所得とは何だったのかと考えてみると、それはおそらく田畑だろう。自分が所有している田畑を小作人に貸し与えれば、自分が働かずとも小作人が耕して一定の収穫物を納めてくれるという構図だ。まさに不労所得である。貨幣の代替機能を長年果たしてきた米であるが、それが安定的に得られたなら生活に大きな安心感をもたらしてくれただろうし、実に多くの人が田畑を求めたのだろうと想像する。事実、『みかぐらうた』の七下り目には「でんぢ」が次のような文脈で登場する。

三ツ　みなせかいのこゝろにハ　でんぢのいらぬものハない

四ツ　よきぢがあらバ一れつに　たれもほしいであらうがな

五ツ　いづれのかたもおなしこと　わしもあのぢをもとめたい

七ツ　なんでもでんぢがほしいから　あたへハなにほどいるとても

この四首のお歌の意味を総合すると「みな世界の人の心を見れば、田地の要らないという者はないだろう。良い田地があれば、「わしもあの良い田地を求めたい」と思うのは誰でも同じことである。たとえ対価がどれだけ要るとしても田地が欲しいだろう。」と読むことができる。改めて見てみると、七下り目のお歌が十首あるが、その内に含まれるこの四首ものお歌がほぼ同様の意味であることが分かる。これは『みかぐらうた』の中では他に例を見ない特異点だ。これほどまでに田地の価値を繰り返して強調されているのは非常に興味深いが、親神様がお伝えになりたい核心はその続きの歌にあらわれているのではないだろうか。

八ツ　やしきハかみのでんぢやで　まいたるたねハみなはへる

九ツ　こゝはこのよのでんぢなら　わしもしつかりたねをまこ

ぢばのある元の屋敷、親里が神の田地であり、神の田地に蒔いた種はみな生えてくるのだと仰せられている。神の田地に種を蒔く行為とは、つまるところぢば屋敷での「ひのきしん」である。その委細は『稿本天理教教祖伝逸話篇』三七「神妙に働いてくれますなあ」をご参照頂きたいのだが、この逸話において教祖は西尾ナラ

ギク（当時18歳）に対して、

> ナラギクさん、こんな時分には物のほしがる最中であるのに、あんたはまあ、若いのに、神妙に働いて下されますなあ。この屋敷は、用事さえする心なら、何んぼでも用事がありますで。用事さえしていれば、去のと思ても去なれぬ屋敷。せいだい働いて置きなされや。先になったら、難儀しようと思たとて難儀出来んのやで。今、しっかり働いて置きなされや」

とお声をかけられている。つまり、教祖はナラギクが「神妙に働いている」姿に感心され、このぢば屋敷において「せいだい働いて置きなされや」とお声をかけられ、そうすれば難儀しようと思っても難儀が出来ないようなありがたい日々の暮らしが待っていると仰せになられた。

冒頭で、不労所得は多くの人にとって憧れの的だと申し上げた。確かに不労所得はあるに越したことはない。あれば実に安心感があるだろう。しかし、この道の教えを信じる我々よふぼくはこうしたものを必要以上に求めなくとも、「我々には神の田地がある。この親里ぢばがある。そして、この神の田地に真実の種、喜びの種を蒔けば、親神様が必要なときに必要な分だけの御守護を必ず下さるんだ」ということを心から信じ切ることによって、生活する上での安心感、人生を歩んでいく上での安心感を得られるのではないかと思うのである。

現在、青年会ひのきしん隊では創立70周年の記念企画として、教会系統に関係なく、年齢層によって参加者を募集する「FRAT入隊」が随時実施されている。その教会長後継者コース（３２～４０歳）と学生層コースに、旭日分会からそれぞれ1名ずつ参加させていただいた。神の田地であるおぢばで、同じ境遇・年代の者と神様の御用に励んできた彼らの所感をぜひご一読いただきたい。

（松田 祐輝）

同級生っていいな

松田 祐輝

同級生というのはなんだか不思議な存在である。職場の人間関係のように利害関係があるわけでもなく、家族のように常日頃からその人のことを考えているわけでもない。しかし、ひとたび同級生に会えば、ふつふつと懐かしい感情がよみがえり、普段社会の中で「大人」として振舞っている自分の心を、ばかばかしいことを言ったりするような童心に戻してくれる。なんとも不思議で大切な存在だ。

野球の世界でも松坂大輔の同級生を「松坂世代」と言ったり、サッカーの世界では中田英寿の同級生を「中田世代」と呼んだりする。そして、テレビのトーク番組などでその世代の人達が一堂に会する様子を見ていても分かるように、彼らもとても仲が良いのだ。彼らは「日本のサッカー界の躍進のために」という同じ目標を持っている同志でもあり、「負けていられるか」と切磋琢磨する関係でもあるのだろう。いずれにしても自分を成長させてくれる貴重な存在なのだと思う。

私はそういう存在が教内にほとんどいない。旭日大教会では同級生が少ない世代で、教会子弟の同級生といえば２人ほど顔が浮かぶが、社会での仕事が忙しいようで、何年も会えていない現状である。また、私は管内の学校にも通っていなかったため、幼い頃から共に歩んできた同級生というのは教内では皆無である。自分の境遇を嘆いても仕方の無いことだが、少し寂しい気持ちを持っていた。そういうこともあって、このたびFRAT入隊の教会長後継者（３２～４０歳）コースに参加のお声がけをいただいてとても嬉しかった。

実際の様子を説明すると、１泊２日のプログラムを基本的に班で行動するのだが、私の班は３３歳が３人と３２歳が２人の５人で構成されていた。募集対象は３２～４０歳だったが、その中でもなるべく同じ年代になるように班分けがなされていた。そして、天理教を信仰していることはもちろんのこと、教会後継者という立場も同じである。まさにFRAT入隊の名の通り、フラットな関係性である。もちろんすぐに打ち解けることができた。そして、ただ単に楽しいだけではなく、練り合い（対話）の時間も設けられており、仕事と教会でのつとめとの兼ね合いについて、あるいは自分が所属している教会の未来像などについても真剣に語り合うことができた。自分と同級生の班員が、児童福祉関連の事業所を立ち上げて懸命に働いている姿は私にとって非常に刺激になった。

青年会本部がひのきしん隊結成７０周年の時旬にFRAT入隊を企画した目的として、「教

会長後継者同士の繋がりを強化し、共にお道を歩む仲間としての関係を築く」ということが挙げられていたそうだが、まさに私はそうした仲間を求めていたし、今回の入隊を経てそうした存在を出会えたと思う。最後の班の時間では、「お互いの会長就任奉告祭にぜひ招待してね」と、将来に向けた明るい約束を交わして、それぞれの日常へと戻った。

この素晴らしい企画も、23歳～31歳の教会長後継者コースの第3回である11月9日（土）～11月10日（日）を残すのみとなった。普段、社会で仕事に励んでいる人でも参加しやすいように週末に設定されているので、ぜひ旭日分会の中で対象年齢にあたる教会長後継者の方々には参加を前向きに検討していただきたいと願うばかりである。

FRAT入隊学生層コース
第３回：９／５～９／６

FRAT入隊教会長後継者
コース（３２～４０歳）
第２回：６／１５～６／１６

学生フラット入隊

松田 布元

私は青年会本部が開催してる学生フラット入隊に参加させていただきました。なぜ学生フラット入隊に行くことになったのかというと、友達が参加するということと私はサウナが好きで山でのテントサウナがあるという理由で、自分はノリと勢いで旭日の青年会委員長にお願いして行かせていただくことになりました。

フラット入隊に行かせていただいて気づいたことがあります。まず、今何気なく使ってるスマートフォンについてです。今回天理教本部が保有している山の中の一つである、蛇谷山という山に行かせていただきました。そこはスマートフォンが使えない圏外にある場所です。スマートフォンが使えない環境になり、最初はどうしようかと思っていましたが、それを忘れるくらい学生のフラット入隊を楽しむことができ、川遊びやテントサウナ、普段しない焚き火で作るご飯で仲間との仲を深めることができました。

また、１泊2日という短い期間でしたが、スマートフォンが使えない環境から、スマートフォンが使える環境に戻ってきた時には友達とガッツポーズしたことを覚えています。そして、スマートフォンを久しぶりに触ったような感覚になりました。それぐらい思うほど、私は日常の中で、スマートフォンに依存しているだなと思いました。

スマートフォンがあるのは当たり前ではなく、ありがたいことなんだなと改めて思いました。スマートフォン以外にも健康的な体、新鮮な食べ物など、普段の日常の中にはありがたいことがたくさんあり、親神様のご守護によって自分たちが生かされていることを忘れてはいけないなと思いました。

今回の学生フラット入隊を通して気づいたことや感じたことがあり、非常にいい経験になりました。また、青年会ひのきしん隊結成70周年という節目で自分が学生のときに迎えたことも何かの縁であると感じられました。来年からは学生ではありませんが、またこのような機会があったらぜひとも参加させていただきたいなと思います。

70TH ANNIVERSARY

そうだ。僕たちにはおぢばがある。

ここに来れば
誰かのために
真剣に祈る。

PRAY 祈

なぜ、あなたは
信仰しているのですか。

かしもの・かりものに基づく
対話によって考え方を
百八十度変えてもらいました。

未来は明るいから
絶対に大丈夫。

誠

人の良いよう、
喜ぶよう、
たすかるように
心を働かせる。

心

僕たちは
心を澄ますことから
はじめよう。

信仰していてよかった
そう思えるようになった。

伝える人から
伝わる人へ。

VISION

夢

心を澄ます毎日を。
—ほこりを減らし、誠を増やす—

JIBA ARAKITORYO

おやさとふしん青年会ひのきしん隊結成70周年記念
第98回 天理教青年会総会

【式典】 10月27日 午前10時 本部中庭
【関連行事】 10月26日 午後13時～ 百母屋・天理幼稚園
【前夜祭】 10月26日 夕づとめ後～ 東西泉水プール前広場

総会特設ページ▲▲

第九十八回天理教青年会総会

日時

10月27日（日）　午前9時 旭日大教会集合

対象

旭日大教会につながる16～40歳の男子

備考

・当日はハッピをご着用ください。

・昼食は旭日大教会にて焼肉を予定しております。

・解散予定時刻は１６時です。

参加者へのお願い

昨年の青年会総会に参加されていない方は、右のQRコードを読み込んで、あらかじめユーザー登録をお済ませください。